

2020年3月12日

地区ガバナー 各位
地区危機管理委員長 各位
地区 R 青少年交換委員長 各位

一社) 国際ロータリー日本青少年交換
多地区合同機構 (RIJYEM)

理事長 鈴木孝雄
アドバイザー 近藤眞道
事務統括 津留起夫
地区危機管理支援委員会

COVID-19 (新型コロナウイルス) 対応について (その3)

冠省

2月25日付で COVID-19 対応策の基本方針を各地区に配信いたしました。追って、3月9日には、受入学生の「来日学生全員を早急に彼らの母国に帰国させる」ことを現時点での基本方針とする指針(その2)を配信しました。今回は、「日本よりの派遣生徒を早急に日本に帰国させる」ことを現時点での基本方針とする指針(その3)を配信いたします。

アメリカのトランプ大統領は日本時間の12日午前、国民向けの演説を行い、アメリカ国内での新型コロナウイルスの感染の拡大を抑えるためヨーロッパからの入国を停止することを明らかにしました。(3月12日 11:45 NHK ニュース)

世界各地で感染が拡大する新型コロナウイルスについて、WHO=世界保健機関のテドロス事務局長は、「新型コロナウイルスはパンデミックと言える」と述べて世界的な大流行になっているとの認識を示したうえで、各国に対して対策の強化を訴えました。(3月12日 11:45 NHK ニュース)

米疾病対策センター (CDC) は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、米国内の大学当局に対し、世界各国で学ぶ米国留学生に帰国を促すことを検討するよう求める特別指針を発表しました。(3月9日 ロイター通信)

AFS (留学プログラムを持つ国際的奉仕組織) は、次のように決定しました。イタリアでは、米疾病管理予防センター (CDC) のリスクレベルが引き上げられ、国内人口の約4分の1といわれる約1600万人の移動が制限されたこと、今後この制限区域が広がる可能性が高いこと、学校の休校が長期化する可能性があることなどから、AFS 国際本部と AFS イタリアは、現地でのプログラム中止を決定いたしました。日本からは29人の高校生が年間派遣プログラム生として滞在していますが、帰国便等の手配がつき次第、全員帰国予定です。(2020.3.12HP 確認)

このような状況を受けて RIJYEM はロータリーの社会的責任を果たすべく、日本からのロータリー青少年交換プログラム参加の派遣生徒全員を早急に日本に帰国させる指針を出すことに決定しました。

引き続き地区ガバナー及び地区リーダーの皆様にはご配慮の程宜しくお願いいたします。

草々

RIJYEM 地区危機管理支援委員会決定指針（その3）

（2020年3月12日）

1. RIJYEM は2月25日の基本指針を基とし「日本よりの派遣生徒を早急に日本に帰国させる」ことを現時点での基本方針とする。

2. 関係各地区はこの基本方針に基づき、派遣生徒の両親、スポンサー（送出し）クラブなどの国内関係者と綿密な協議を持ち、ご家族、ご両親の意向を最大限に尊重し、かつ、海外派遣先地区関係者と緊密な連絡協議を行い、関係者全員の合意の元、海外派遣先の地区、ロータリークラブ、ロータリアンの協力を得て、生徒の具体的帰国方策を速やかに実行に移すことをお願いします。

3. 帰国に際しては、それぞれの海外派遣先国最寄りの大使館・領事館に連絡をとり、可能な助言・援助を要請してください。

さらに日本側においても、海外派遣先各国の在日本大使館・領事館に連絡をとり、それぞれの国の最新情報を確認してください。

4. 尚、青少年交換プログラムの責任者は各地区ガバナーでありますので、ガバナーが最終判断をしていただくこと。

（追記）

以上であります。具体的運用においては、派遣生徒それぞれにとって最良と思える方策を取ることをお願いします。イタリアのように帰国する事もすでに相当に困難な状況の地域もあります。派遣生徒全員早急帰国方針を基本としつつ、関係ご家族、ご両親、スポンサー（送出し）クラブ、さらに海外派遣先のホストファミリー、ホストクラブ・地区と協議し、この時期におけるより実行可能な最善の方策を決定して頂く事を求めます。